

事例：No. 18

間伐材の全量搬出を目指した低コスト作業システムの実践

1. 林業事業体等名 有限会社 ^{すぎしたもくざい} 杉下木材（兵庫県宍粟町）

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 9,800 m³（うち 間伐の占める割合100%）
- ②生産する主な樹種 スギ、ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 4名（1セット）

3. 取組の特長

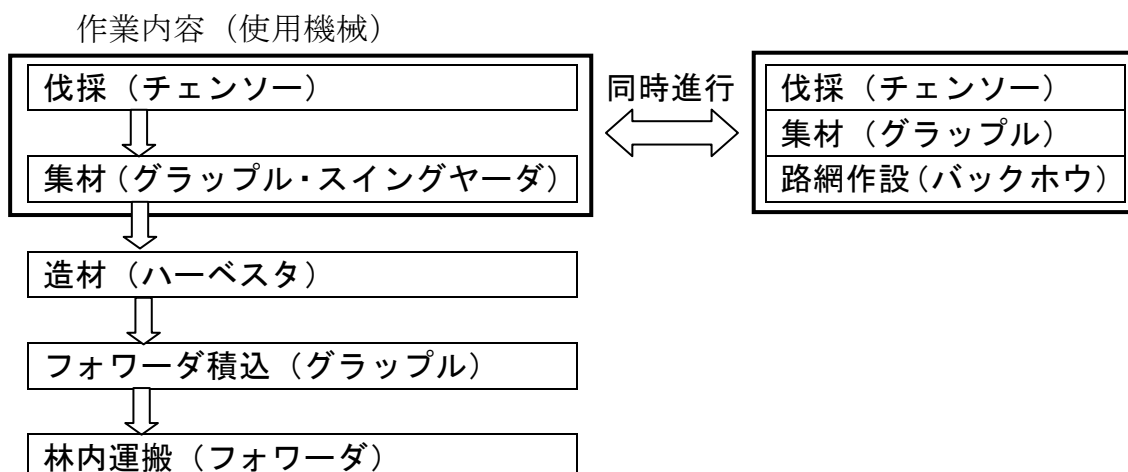
- ・ これまで林地に存置していた未利用材（短尺材、小径木）の利用拡大を目指し、一般材同様に搬出したにも関わらず、従来の労働生産性より高く、搬出コストも低く抑えることができた。
- ・ 手間のかかる短尺材、小径木の積込作業を省くために、減価償却を終えたフォワーダを造材ポイントに配置し、フォワーダ上で直接、短尺材等を切り落とすことで1日当たりの搬出量が、45 m³から52 m³と増加した。
- ・ 短尺材、小径木を低コストで生産したことで利益を出すことができた。
短尺材、小径木の1 m³当たりの山元価格が3,500円に対し、生産コストは1,400円であったため、1 m³当たり2,000円の利益を出すことができた。

4. 具体的な内容

(1) 労働生産性及び素材生産コスト

利用間伐	従来の作業システム		間伐材全量搬出の作業システム	
	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)
	6.2	10,600	6.7	9,700

(2) 従来の作業の流れ



(3) 間伐材の全量搬出を目指した作業の流れ
作業内容（使用機械）



5. 今後の取組等

本事例の取り組みは、平成22年度に引き続き、平成23年度においても実践している。間伐材の全量搬出は、低コストな作業システムにより、利益を生むことが可能であることから、新たな改良に努めていく。

【報告者】

近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署

販売係長 藤木 俊行